

JICA 英国事務所

英国援助情報ヘッドライン

25 October 2005

Vol. 5

今回のメインピック:

予防接種のための IFF(IFFIm)が英国ほか欧州 4 カ国の参加により開始されました。
(3 ページ参照)

DfID のコンディショナリティーに関する見直しについての報告書が発表されました。(3
ページ参照)



From: 英国事務所長

< 演説等 >

アレキサンダー外務政務次官がアメリカのエール大学で貿易と開発について演説、香港での貿易交渉に成功すれば 1.4 億人の貧困者を救済することができ、そのうち 6000 万人がサブサハラアフリカに居住していると述べた。農業に関しては先進国は世界の農産物貿易の 3 分の 1 しか担っていないとし、さらにアフリカはわずか 4 % と指摘した。アフリカの貧困層の 90% が農業に従事していることを考えると開発途上国に貿易、収入、就業の機会を増やすことは不可欠と述べた。香港会合では市場アクセス、国内の支援、輸出の競争力が重要と掲げている。(9月21日)

ブレア首相、ナイジェリアのオバサンジョ大統領、ボブ・ゲルドフのニューヨークでの国連ワールドサミットに関する談話にてブレア首相はグレンイーグルスサミットでの約束は国連サミットに引き継がれ、市民組織、アフリカ諸国、主な政権で共有されている。アフリカに 2006 年を目途に 75000 人の平和維持軍を配備するとのべた。オバサンジョ大統領は国連サミットは成功だったとし、この先が見たいと述べ、ゲルドフはグレンイーグルスでの約束を世銀・IMF 総会で実施に移してもらいたい。ブッシュ大統領が MDG を支持すると述べたことは大きな前進であると述べた。(9月16日)

< プレスリリース >

DfID はインドの洪水被災者に 200 万ポンドの人道支援を実施する。支援内容は毛布、医薬品、ごみ処理、浄水装置など。(9月28日)

DfID はコンゴの選挙支援に 5 百万ポンドを追加拠出し、支援総額が 2220 万ポンドとなった。国民の 1100 万人はすでに選挙登録を済ませており、写真入の登録証の発行を受けている。DfID の資金は登録以外にも選挙監視人の研修、警察組織の強化、選挙プロセスの国民への伝達へ使われる。(9月26日)

南部アフリカ地域の食糧危機に対して英国は総額 1150 万ポンドの資金を提供する。内訳はジンバブエへ 1000 万ポンド(国連機関あるいは NGO 経由で穀物の供与)、モザンビークへ 35.5 万ポンドの種子・肥料・農機具購入券、レソトとスワジランドへはそれぞれ 35.5 万ポンドと 35 万ポンドの種子購入券である。(9月22日)

英国は来年 1 月に運用が開始される国連の新たな緊急人道支援基金へ 1.5 億ポンドを拠出する。この基金へはスウェーデン、ノルウェー、オランダ、スイス、ルクセンブルグ、ナイジェリアが参加しており、従来の方法では資金拠出まで 3 - 4 週間かかっていたものが 1 - 2 日に大幅短縮される。現在 OCHA が提案書を作成中で、11 月の国連総会に提出される見通しである。(9月15日)

DfID は食糧危機に陥っているマラウィへ 500 万ポンドの資金を提供し、南アフリカ産のとうもろこし 6 万トンの購入とユニセフが行っている栄養失調の子供への給食を支援する。(9月13日)

<ニュース>

DfID の漁業管理プログラムに関する報告書によれば、気候変動で最も大きな影響を蒙るのはアフリカの漁民である。彼らの捕獲量の 90%は養殖ではなく捕獲によるもので、さらに気候変動がこの地域へ及ぼす影響も深刻と予想される。このため、影響を軽減する方策について9月12日にDfID、FAO、関連研究機関・大学が会合を持った。(9月29日)

ベン開発相は教育のファストトラックイニシアティブ (FTI) に 4000 万ポンドを追加拠出することを表明した。FTI ではドナーが予測可能かつ透明な資金・技術協力を行い、被援助国が初等教育を内政の優先課題に掲げ、国家教育計画を策定することになっている。(9月12日)

DfID は 2006 年に予定している HIV/AIDS 評価の枠組みを公表し、コメントを公募している。これは 2004 年 7 月に首相がエイズ対策を表明して以来、15 億ポンドが拠出され特に婦人や子供達により多くの支援が向けられたことによる。評価では追加資金のインパクトが焦点となる。(9月12日)

英国、フランス、スペイン、イタリア、スウェーデンが予防接種のための IFF(International Finance Facility)を開始した。今度 10 年間で 40 億ドルを Vaccine Fund と GAVI(Global Alliance for Vaccines and Immunisation)へ資金拠出することにより、利用度が低いワクチンや貧困国向けの新たなワクチンの開発を目指す。IFF ではドナー資金を先に募ることで、予測可能性を高め、200 万人の救済を目標としている。(9月9日)

DfID のコンディショナリティーにかかる見直しが公表された。この報告書によると現在は英国が相手国と合意するパートナーシップ協定と DfID が個別に実施する案件のコンディショナリティーが連動していない。また、資金拠出にかかるコンディショナリティーと他の達成目標の関係も政策書に比べてあいまいである。財政支援にかかるコンディショナリティーはマトリックス方式で項目が多いものの、相手国政府からは特段の指摘が出ていない。英国としてはこの先はより多くの国で貧困削減戦略に連動した達成目標を掲げることとしている。それに対して DfID の在外事務所からは政策面でのコンディショナリティーがなくなるのか、膨大な項目を有するマトリックスをどのように適用するのか、そしてそれは資金拠出の実行に際してどう関係付けるのか、援助協調が謳われている中で他のドナーのコンディショナリティーとの調整をどう図っていくのか、人道やガバナンスに関する

コンディショナリティーをどのように相手国政府と協議するのかなどの質問がでている。
(9月7日)

Global Fund 拠出会合がアナン事務総長の出席を得てロンドンで開催され、EU加盟国及びECが2006年から2年間で23億ドルの拠出を発表した。この基金は2002年に発足し、これまで127カ国で300のプログラムを実施した。(9月6日)

DfIDが成長の機会に恵まれないグループに関する政策提言書を作成した。この提言書では貧困削減において参加の機会が与えられないグループにどのような影響があるかを国別セクター別に分析するよう呼びかけている。また、脆弱な国家や紛争によって生み出されるグループの分析を提言している。(9月6日)

以 上